

杏林

KYORIN DAIGAKU SHIMBUN

大学新聞

1面	座談会／多様な世界で活躍する力を グローバル教育 成果の検証と今後の展開 教育の地域志向化の方向性 グローバル教育を高校へも開放 井の頭キャンパス工事順調に進む	5面	卒業生、在学生リレー 法テラス東京 弁護士 福島正洋さん 医学部 森一祥さん 杏林年代記(9) 初代学部長の言葉
4面	杏林見聞録④ 外国語学部 八木橋宏勇准教授	6・7面	学部・大学院トピックス クラブ・サークル紹介
		8面	金田一教授の研究室から 健康ひとくちメモ、数字でみる杏林大学

座談会 ● 学長、副学長、4学部長が語る

杏林の教育と新キャンパス

多様な世界で活躍する力を

学園創立50周年の2016年4月にいよいよ井の頭キャンパスを開設します。三鷹と八王子に離れていた2つのキャンパスが三鷹に集結することによって、杏林大学の新たな教育の可能性が開かれようとしています。主役である学生たちの成長をどう支えていくか、新キャンパス開設後の杏林教育のめざす姿について、跡見学長、スノードン副学長、渡邊医学部長、大瀧保健学部長、大川総合政策学部長、坂本外国語学部長に語り合っていました。

長をどう支えていくか、新キャンパス開設後の杏林教育のめざす姿について、跡見学長、スノードン副学長、渡邊医学部長、大瀧保健学部長、大川総合政策学部長、坂本外国語学部長に語り合っていました。



井の頭キャンパスでは4つの学部の学生たちの交流から様々な学びの化学反応が生まれるにちがいない。右上：昨年、羽村市東口商店会の活性化をめざして行われたプロジェクトの発表会。総合政策学部と外国語学部の学生がグループを組んで、2日間かけてリサーチと発表を行うなど、すでに学部連携の基礎はある。右下：八王子キャンパスで開催した杏園祭

4 学部の連携を強化 国際的視野、基礎学力、専門性を養う



井の頭キャンパス 深まる学びときずな

——キャンパス移転、新しい教育とは
跡見学長：杏林大学には医学部、保健学部、総合政策学部、外国語学部の4つの学部で約5,000人の学生が在籍しています。
学生数の多い大学では、学部ごとにキャン



あとみ ゆたか
学長 跡見 裕
東京大学卒 医学博士 消化器・一般外科医。2010年4月より現職。2012年から本学は5つの文科省公募事業に採択。その中心的役割を果たす。日本臨床外科学会会長、日本成人病（生活習慣病）学会名誉理事長

パスが違ったり、卒業まで同じキャンパスで過ごせないことがあります。
総合大学でありながら、非常にまとまりやすい規模の杏林大学にとって2つのキャンパスが近くなることの利点は極めて大きい。
井の頭キャンパスでは、学生は4学部の様々な講義や教員の研究にふれることが容易になるだろうし、学生間の交流もしやすくなります。
他学部教員による講義もすでに始まっています。たとえば日本語教育を担当する外国語学部の教員が医学部で行う授業は、患者とのコミュニケーションが重要視される医師をめざす学生に非常に好評です。
一方留学生の多い外国語学部では、グローバル化を背景に特定地域での感染症が身近になったこともあり、医学部の教員による国際的な感染症の話には大きな関心が寄せられました。
これを広げて「医療」をテーマにした場合、総合政策学部や外国語学部がかか

わる「医療経済」「医療通訳」といった分野の学びが考えられます。異なる学部の学生と一緒に講義や実習をうけたり、ともに課題に取り組んだりすれば、別の視点の考えや意見を知ることができます。
キャンパスが近くなればこうした学部間での連携がもっと増え、学生同士、学生と教員、教員同士の交流がさらに進むでしょう。
スノードン副学長：私の経験からも、大学時代は人生の道が形成される大切な時期です。友達皆が同じ専門ではもったいないことです。専門の異なる4学部の学生が同じキャンパスに集う意味は非常に大きい。
学びや人生の一時期を共にするコミュニティとして井の頭キャンパスは、学生たちが人生を始めるのにふさわしい場所です。
医療系—文系の学部連携
渡邊医学部長：医療の現場では、他職種と行うチーム医療が基本です。その意味

で、特に保健学部との連携を教育に活かしたい。看護や臨床検査などさまざまな分野の教員からそれぞれの職種が医療の中でどのような役割を担っているかを学ぶことができるでしょう。
また、学生同士で一つの問題に取り組むことで、保健学部の学生はどう考えるかを知ることもよい経験になります。
キャンパスが近くなればそのような機会も専門教育が深まるごとに頻りに設けることが可能になるかもしれません。
一方、医師になればいろいろな患者と接することになります。



副学長 ポール・スノードン
ケンブリッジ大学キングス・カレッジ修士号取得。早稲田大学国際教養学部長を経て2012年杏林大学客員教授。2013年4月より現職



医学部長 渡邊 卓
東京大学卒 医学博士 脳神経外科医。臨床検査医学教授。日本脳神経外科専門医、日本臨床検査医学会認定臨床検査専門医。2014年4月より現職

従って、医学生にとって社会の常識や世の中の動きを学ぶことも大切です。

また、6年次のクリニカルクラークシップ(参加型臨床実習)を海外で行う学生も多く、その国の文化や社会について理解を深めることが大切になります。

さらに、医学の世界では最新情報の収集や論文発表は英語で行うため、英語は基本的なツールとして習得しなければなりません。こういった点で、文系学部との連携を医学教育の中に取り入れていければと考えています。

大瀧保健学部長：付属病院が近くにあることは大きなインパクトです。保健学部がある大学で付属病院が近接する大学はめずらしく、医学部と連携しているケースはあまりありません。

今まで病院実習は9時から17時の日中のみでしたが、早朝や夜間の実習やボランティア活動の可能性も広がります。

付属病院には模範になる先生がたくさんいます。その人たちの背中を見ながら実習できることは有意義なことです。

社会を知るために、総合政策学部の教員がそれぞれの専門のテーマで社会の動きを解説した科目「社会のしくみ」がありますが、保健学部の学生もこれを活用した講義を受けられるとよいですね。

学生はどんな企業に就職してもコミュニケーションのツールとして英語は必要になるでしょう。外国語学部の協力を得て、使える英語が4年間で身につけられるとよいと思っています。

大川総合政策学部長：各分野で専門化の進んだ現在、多角的な視点から物事を総合的に把握することが益々重要になっています。このため、これまで学部内で進めてきた学際教育を一段と充実させ、学

生には法学、経済学、政治学等の基礎的な社会科学を広く浅くではあっても一通り学んでもらい、その後に自分の専門を決めてその中で自由に履修科目の選択ができるようなカリキュラムを導入する方向で考えています。

さらに、近くなる医学部や、同じキャンパスだった保健学部、外国語学部とも連携を強め、自然科学や人文科学の分野も交えた学部間の学際教育を展開することもできると思います。たとえば少子高齢化の下で日本の社会保障制度は転機を迎えています。医学部や保健学部から高齢者医療や介護の実情を学ぶことで財政や政治の分野から社会保障を見るのとはまた違う認識を持つこともできるでしょう。

また、グローバル化の対応として語学教育の充実等外国語学部との連携強化を従来以上に進めたいと考えています。

坂本外国語学部長：井の頭キャンパスに移ると、外国語学部の学生が医学や保健分野の講義・講演を聞くなど、普段とは違う学びに触れる機会が格段に増えると思います。

他方、医学部・保健学部の学生が、それぞれの専門を外国語で学ぶ機会などは、外国語学部がお手伝いできることです。

杏林のように外国語学部に関心の学科がある大学は少ないでしょう。観光交流文化学科の教育の特色であるサービスやおもてなしは、医師や医療スタッフにとって大事なことだと思います。その面でも貢献できると思います。

学生同士の交流も深まる

——課外活動における学部間連携

跡見：井の頭キャンパスでは、学生間の交流も深まるでしょう。スポーツ大会などの交流イベントや英語スピーチコンテスト、キャンパスごとに開催していた学園祭を一緒に行うなど課外活動での共同作業ができてきます。

また、語学サロンやライティングセンター、国際交流プラザなど施設も学生交流にはとても重要なポイントです。

課外活動は学生生活には重要な要素で、人間的に大きく成長することが期待



八王子キャンパスで開催している国際交流の集い。学生・教職員が留学生と交流を深める機会です

グローバル社会で活躍する人材を育てる



されます。こういう機会や活動場所の充実も考えていきたいです。

渡邊：医学部では1年生から4年生まで少人数クラスで英語を学ぶことになりませんが、生きた英語が学べる英語サロンや英文作成能力を高めるライティングセンターは医学部生にとっても魅力的な施設です。

坂本：ライティングセンターやネイティブスピーカーと会話ができる語学サロンが、学部を超えた学生たちの交流の場になることはとても大事です。また、海外からの留学生にとって日本を知るきっかけとなり、異文化体験のチャンスになると思います。

八王子キャンパスでは毎月、国内外で活躍する方をお招きしてグローバルセミナーを開いています。1月はスリランカ出身のジャーナリストがアジアにおける日本の役割をテーマに講演しました。このようなセミナーに他学部の学生も参加してもらいたいです。

“なりたい自分”を見つけるサポート

——学生に身につけてもらいたいこと

跡見：いま、日本も含めて世界で、いろいろな人が、いろいろな考えで、いろいろなことをしています。その多様性のなかで、しっかりと生き抜く力と活躍できる力を身につけてほしいと思います。

それには国際的な視野、基礎学力、専門的な力を融合させることが必要です。

医学部や保健学部の学生には国家試験に合格することが最終目的と考える傾向がありますが、私たちはそうではないと思っています。たとえば、どういう医師や看護師になりたいのか、地域で活躍するのか、世界を舞台にするのか、あるいは研究者をめざすのか。

外国語学部、総合政策学部の学生のな



外国語学部長 坂本 ロビン
アンティオック大学卒、ミネソタ大学大学院修了 Ph.D. 慶應義塾大学、立教大学ランゲージセンター、東京大学、東京外国語大学などで教員経験がある。2014年4月より現職

かには、まだ将来の目標が決まっていない学生もいるでしょう。そういう学生に、学部の学びや他学部との交流をとおして将来どういう仕事をめざせるのかを示したいと思っています。

学生たちが“本当になりたい自分”を見つけるのをサポートするのが私たちの務めです。

大川：先にも述べましたが、総合政策学部ではそういう学生に“なりたい自分”を発見させるために、専門科目の履修に先立ち社会科学の基礎を一通り広く浅く学習する導入科目を充実させたいと思います。

その後、たとえば海外での留学や研修を経て“なりたい自分”が決まったら、その目標に向けて学部として全力でサポートするために、目標に適した自由な科目履修を可能とするとともに、個々の目標実現のために必要なキャリア教育を自らが取捨選択できるように柔軟なカリキュラムを導入していく方針です。

坂本：外国語学部の学生には、単に言葉が好きというだけでなく、将来、言葉をどう活かしていくのかを考えてもらいたいです。

昨年の入学式で学長は、「杏林大学で学んでほしいことは、how to learn だ」と言いました。杏林大学は4学部あるので、自分の専門以外にも興味のあることを学べ、キャンパスや留学先で異文化に触れる機会もあります。在学中に自分のポテンシャルを把握して、この先続く人生の中で活かす方法を身に付けるのです。



グローバル人材育成 成果の検証と今後の事業展開

更なる大学教育のグローバル化をめざして

平成24年度に文部科学省に採択された本事業は、あと2年で補助期間が終了します。

杏林大学では残された2年の中で事業成果の可視化・検証を進めるとともに、来春のキャンパス移転を契機に、更なる大学のグローバル化を推進します。

■語学【英語・中国語】力の更なる強化

独自教材の開発・改良、語学サロン・e-learning等を共有し活用を促進するとともに、語学検定等により語学教育の学習成果を検証していきます。

■スマートでタフな交渉能力の涵養

アクティブラーニングを活用した教育を継続実施し、グローバル社会の理解やプレゼンテーション技能を養成します。また、ループリックを用いてコミュニケーション力やグローバル素養の習得度の測定を行います。

■海外協定校への留学促進、奨学金等によるサポート

既に協定を締結している海外協定校を中心に、海外留学派遣を促進していきます。また大学独自の充実した奨学金制度やきめ細かなサポート体制で、学生の留学を支援します。

■育成した人材の就職・社会での活躍状況

育成した学生の社会(就職先)での評価を調査するほか、企業との懇談による「育成すべき人材」に関する意見・情報交換を行い、卒業後のフォローを行います。

■キャンパス移転・統合によるメリット

来春、杏林大学の4学部が三鷹に集約されることにより、本事業の成果を全学部の学生が共有し、相乗的に大学全体のグローバル化を推進していきます。

(国際交流センター副部長 塚本 悌三郎)

杏林大学の海外留学支援制度

交換留学制度(留学先の授業料免除)
協定校へ交換留学学生として派遣される学生は留学先の授業料が全額免除される
留学期間中(学期)の授業料(80%)減免制度
学部・大学院が認めた留学で、留学先に学費を納入する留学(交換留学を除く)が対象
杏林大学海外研修・留学奨学生制度(給付)
学部・大学院が認めた研修・留学で、成績優秀で勉学意欲に富み、研修・留学の成果が期待できる者に給付
外国語学部熊谷奨学生制度(給付)※外国語部のみ
外国語学部2・3年次に留学する学生が対象。留学費用の75%かつ50万円を上限とする

日本学生支援機構海外留学奨学金

海外留学支援制度(短期派遣)「重点政策枠」(給付)
本学にはグローバル人材育成支援拠点大学として特別枠が与えられています。条件を満たした8日~1年以内の留学プログラムが対象
第二種奨学金(短期留学)(貸与)
留学期間が3カ月以上1年以内で、諸条件を満たした者が対象

詳しくは国際交流センターまで



おおかわ まさとし

総合政策学部長 **大川 昌利**

東京大学卒、ハーバード大学法科大学院・ポストン大学法科大学院修士課程修了 LL.M. 日本銀行鹿児島支店長、情報サービス局長などを歴任。2014年4月より現職

グローバル教育を推進 国際的な視野を育む

跡見：杏林大学がめざす大きな柱の1つは国際的な視野を持ち活躍できる人を育てることです。

医学部では昨年、学年の約4分の1にあたる25人の学生が海外で1カ月間臨床実習を行いました。この数はおそらく国内の医学部ではトップクラスです。

保健学部はカナダやアメリカで研修をしており、総合政策学部では短期・長期の留学や海外ゼミ合宿などもしています。

もちろん外国語学部では留学する学生も海外から受け入れる留学生も多い。ここ数年で加速度的にグローバルを意識した教育が進んでおり、「国際的な視野を持ち活躍できる人材を育てる」という本学の教育理念が実現しつつあります。

いま、収益の大半を海外であげている企業も多い。また、昨年は海外から1,300万人を超える観光客が来日しており、2020年にはこの数を2,000万人まで伸ばすという国の意向があります。

日本でもグローバルを意識した生活は自然になり、英語は「話す」から「使いこなす」ものになるでしょう。

しっかりと自分の考えを持ち、それを説明でき、人に共感・共鳴を与えられ、それに対する意見が言える、グローバル社会を生き抜ける人になってほしいと思います。

スノードン：グローバル化は当然のことで、全員の学生が留学できるチャンスを準備するのが大学の義務でしょう。大事なことは、まず自分の国、ことば、文化をよく知ることです。そのためには他の国と比較することが必要です。

留学をすると自分の国のよいところ、

そうでないところなどが見えてきます。

母語と世界共通語の英語に加え、もう一つ言葉を身につけることで、より比較ができる。杏林ではすでにそのような教育をしています。

坂本：いま、留学する学生が増えています。ある学生は2回参加し、1回目は英語を学ぶため、2回目は外国人に日本語を教えるインターンシップを体験しました。

また、昨年からはじめたIELTS（アイエルツ：英国、豪州など英語圏の大学等へ留学する際必要となる英語力判定試験）は、今年さらによりスコアをとる学生が増えています。

平成27年度の春学期に、海外に留学する学生は約30人で、逆に中国やアメリカからの約30人の留学生が杏林で学ぶことになっています。これは今までにないことです。

大川：日本の社会がグローバル化していく中で、社会現象を扱う総合政策学部の教育もグローバル化への対応を積極的に進めます。

今後、語学教育の充実や英語による講義の拡充、海外留学や海外研修の機会を飛躍的に増やし、学生の海外経験を推奨していきます。

一方、ローカルな社会で仕事をしていても、グローバルな視点は必ず必要になります。日本の実情をきちんと理解し、海外に正確に発信できる力をつけるとともに、将来のグローバル社会に貢献できるように日本や地域社会のあり方を考えられる視点を涵養できる教育に努めたいと思います。

渡邊：国際的な視野を身につけるためにも、医学部の学生も海外留学を経験してほしいと考えています。

ただ、大切なのは、行き先の国の経済、社会事情、医療の状況などの背景をしっかりと理解した上で出かけることです。留学を実りあるものにするためにも、他学部の協力を得ながら、そういう教育もきちんと行う必要があると思います。

大瀧：保健学部ではグローバル化に向けて入学試験での英語の配点をあげたことで、英語が好きな学生が増えました。今年には約20人が海外研修に参加します。

研修帰国者の報告会でよく聞かれるのが、現地では、日本の教育や文化、これまで学んできたことについて説明を求められる機会が多かったということです。

学生たちは自分のことや自分の考えを英語で伝える必要性を体験します。この研修

地域からの学びで 実社会のしくみを知る



が非常に有益と感じる理由の一つです。

現在、3割程度の学生が海外研修を希望しています。学生が安心して参加できる体制や仕組みを整えていきます。

実社会から学び、地域に貢献 地域志向カリキュラムを強化

——益々重要になる地域とのかかわり

跡見：杏林大学の持つ一番大きい財産は、教員・職員・学生の人的な財産です。八王子キャンパスから移ってくる5,000人もの人や学部が地域とどうかかわっていくかは非常に大事で、これが3つ目の柱になります。

文部科学省の「地（知）の拠点整備事業」に採択されたことを受けて、4つの学部では地域志向のカリキュラムを整備しました。

地域で活躍することは地域にとどまることではありません。地域を理解することは、様々な応用につながります。三鷹市で自分の活躍する場がわかれば、それより大きな都市や過疎地域、あるいは国際的な場でも応用ができます。

地域で学ぶ様々な仕組みはまさに社会の仕組みなのです。

大川：社会の様々な現象を扱う総合政策学部にとって、最も身近な社会である地域を学ぶことは大きな財産です。

26年度開講した地域志向科目「地域と大学」では、本学と連携する三鷹、八王子、羽村の3市の関係者を講師に招き、各市の現状について説明を受けました。

それをふまえて、3市の課題についてグループに分かれて討議し、課題解決のアイデアを大きな模造紙に張り出して教員や市の担当者にプレゼンしました。



総合政策学部で行われた授業「地域と大学」。羽村市のマスコットや名水で市の活性化を図るアイデアも出されました

文部科学省 地(知)の拠点

教育の地域志向化の方向性

問題解決力を身につける

平成25年度に採択された文部科学省「地（知）の拠点整備事業」では、地域志向の研究や社会貢献とともに「教育内容の改革」が強調されています。

本学では、地域課題を教育の場に持ち込み、その最善解を割り出すプロセスを体感することで、現代社会を生き抜く「問題解決力」を身につける科目として整備を進めています。

地域との関わりを学ぶ

平成26年度から、本学の地域志向科目の基礎となる「地域と大学」が各学部でスタートしました。

連携自治体の協力を元に、地域課題を知るとともに、それを題材に「問題解決」の基礎を学ぶ共通のねらいがあります。

学生にとっては、グループ活動の意義や課題、自らと地域との関わりやあり方を学ぶ機会となっています。

学びの実質化を図る

今後は、「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」（平成24年度採択）との連携、井の頭キャンパス開設に伴う教育・研究機能の統合を視野に入れつつ、地域社会との学び合いを深め、学生の学びの実質化を図っていきます。（地域交流推進室長・外国語学部准教授 古本 泰之）



グローバル教育を高校へも開放

生徒・学生をともに育てる

高大接続は、高校と大学の接点を増やし、双方の教育に連続性や接続性をもたせて、生徒や学生を育成する取り組みです。

杏林大学は昨年から高校と大学の意見交換の場「杏林 AP ラウンドテーブル」を設け、「日中英トライリンガル育成」をテーマに、具体的な教育法やプログラムのあり方を検討しています。

高校からは「中国語教育に力を入れる大学が少ないなか、中国語既修者がさらに力を伸ばせる杏林大学のグローバル教育に期待している」「海外研修のプログラムを高校と共同開発してほしい」などの

要望が寄せられました。

トライリンガルキャンプ

英語や中国語で協働ワークを行い、その成果を発表する「日英中トライリンガルキャンプ」が、本学の留学生や学生、そして高校生が参加して3月25、26日に八王子セミナーハウスで行われます。



杏林大学の取り組みを紹介した冊子「One Step Ahead」

とより、三鷹市の医療・福祉政策などについて行政担当者から講義を受けたあと、グループごとに市内で医療福祉のフィールドワークを行って実態を把握、その成果を発表します。

フィールドワークは学生たちには印象深かったようで、こうしたスタイルの学習は増やしたいと思っています。

地域からの学びの中で医師が地域から求められているものを知ることは、今後の学習に対する強い動機づけになると期待しています。

今は1年生ですが、医学の勉強が進んだ時点でもう一度地域に出てみて、以前とどういった違いを感じるか比較してみる企画も検討してみたい。

大瀧：保健学部も三鷹・八王子・羽村の各市の担当者から保健・医療・福祉についてそれぞれ地域の課題を講義していただきました。

保健学部の健康福祉学科と看護学科では養護教諭になるための勉強をしていますが、井の頭キャンパスができる三鷹市では小中一貫教育を進めていて、これまで学生が実習で体験できなかった環境があり、期待しています。



各学部の教育・育成方針

——学生の力をどう伸ばし、育てるか

大瀧：保健学部は8学科どの学科でも、知識・技術・コミュニケーションのバランスのとれた人材育成をめざし、それぞれの分野で活躍できる人材、“さすが杏林”と言われる人材を育てていきたい。

専門的な知識を詰め込むだけではなく、社会で役に立つ知識にすることが必要です。そのために現場で活躍する人の体験を聞く機会を増やすとともに、自分で体験する、議論して理解する時間を増やしたいと考えています。

坂本：外国語学部で学ぶ“言葉が好き”な学生に、言葉にどのような使い道があるのか教えたいと思います。それには三つあり、一つは社会で言葉を使う。次に、それぞれが興味のあることを3学科の学びをとおして研究する。そして、言葉を使ってサービスを提供することです。

そして、いろいろな分野で活躍する学部の卒業生をみて、杏林大学に入りたいと思ってもらえる人材を育てたいと思います。

大川：これまでも1年生のプレゼミナールをはじめ、person to personの少人数教育を行ってきましたが、これをさらに進め、個々の希望に即したきめ細かな指導を徹底して学生をサポートします。

また、実務家や外部講師を招く機会を増やしたり、学生が実務の現場に見学や

インターンシップ等で参加する機会を増やすことで「実践力」を高めていくことを考えています。

渡邊：医学部では学生と教員との距離をもっと近いものにしたいと考えています。最近、臨床科における症例カンファレンスや最先端の医学に関する読書会への学生の参加を促す、さらには研究室での研究活動に協力するなど、学生が参加できる機会を各教室が提供し始めました。

やる気のある学生は教員と近く接しつつ、より進んだ基礎医学、臨床医学の経験を積むことができます。学生にはそれぞれの才能に合うチャンスを提供するプログラムを用意したいと考えています。

学生が主役 全教職員で支援

跡見：杏林の教育で重視してきたのは、教職員の顔が見える教育、face to face、person to person です。

学部間の融合やグローバル教育、地域との連携などすべてにおいて、学生と教職員が近い距離で、ともにすすめていくのが本学の特長です。

大学はこれからもさまざまな制度を準備して学習や教育・研究環境をさらに充実させていきます。

学生にはそれらを積極的に活用して、大きく成長してほしいと思っています。

大学の主役は学生です。多様化した社会で生き抜く力を持ち、活躍できるたくましい人になれるよう、杏林の教職員は全力でバックアップします。

井の頭キャンパス 建設工事順調に進む



建設中の新キャンパス。三鷹キャンパスより北に約700m離れた敷地面積3.47haに建てられる6つの校舎はすべて免震構造。安全な教育環境を保障

昨年6月に始まった井の頭キャンパスの建設工事は、本年3月には本部棟の鉄筋骨組みが姿を現すなど順調な経過をたどっています。

大学の学びは個人学習だけでなくグループ学習も必要となってきます。本部棟にある図書館はグループ学習室を増設し、PBL(問題解決型学習)などにも対応できるようにしています。

また、キャンパス内で異文化を体験したり、ネイティブスピーカーと交流ができる英語・中国語サロンや海外の留学生と交歓する国際交流プラザも整備します。

新キャンパスは八王子キャンパスの保健学部、総合政策学部、外国語学部が移転してくるだけでなく、医学部1年生の授業も行われ、まさに4学部連携の拠点となります。

井の頭キャンパスは来年1月竣工予定です。

杏林見聞録 ④

やぎはしひろし
外国語学部 八木橋 宏勇准教授

「杏林見聞録」のコーナーは杏林大学の知的財産である教員の研究活動、優れた社会貢献やユニークな取り組みなどを紹介しています。第4回は、認知言語学を専門とする外国語学部英語学科の八木橋宏勇准教授です。インタビューを行った八木橋研究室の書棚は言語学の専門書のほか、昨年11月に実施した公開講演会「ジブリ映画字幕翻訳から学ぶ異文化間コミュニケーション」にも登場した映画DVDや本学名誉博士ドナルド・キーン先生の著作集も。様々な観点から「ことばのダイナミズム」に迫っている八木橋准教授に伺いました。



略歴：青森県弘前市出身。慶應義塾大学文学部(英米文学専攻)卒業、同大学大学院文学研究科英米文学専攻前期博士課程修了・後期博士課程単位取得満期退学。2007年杏林大学外国語学部着任。日本認知言語学会事務局長、独立行政法人国際観光振興機構(日本政府観光局)外部委員、NPO法人「地球ことば村・世界言語博物館」運営委員なども務める

認知言語学の世界へ

中学生の頃に印象的な言語体験がありました。中学二年で秋田県大館市から青森県弘前市に移住したのですが、東北の言葉でも秋田弁と津軽弁は大きく異なります。転校直後は津軽弁に戸惑いましたが、またたく間に慣れ、今度は秋田弁が使いづらくなってしまったという不思議な体験をしました。

また、年が離れた妹が日々言葉を覚えていくプロセスに興味深く、人が言語を獲得する過程に興味を持つようになりました。ことばの面白さや魅力を知るきっかけだったのかもしれない。

父は医師ですが、私は医学の道へは進まず、認知言語学を学びました。「言語」を研究する学問は総じて「言語学」と呼ばれますが、言語学にも様々なアプローチの仕方があります。

「社会」と言語の関係を追求するのが「社会言語学」、人間の「認知」能力と言語の関係を取り扱うのが「認知言語学」です。言語に特化した能力が生得的に備わっているのではなく、他の心の働き(一般認知能力)と言語能力は分かちがたく結びついていて、その在り様から言語の全体像に迫るダイナミックな言語理論です。

大学進学の際、父に言われたことがあります。「医学部に行かなくてもよい。ただし、徹底的に勉強しなさい」と。大学病院に勤務していた父が昼夜を問わず診察・手術・講義・論文執筆をしていた姿を見て育っていますので、この一言の意味をいまでもよく自問しています。

地方医療と方言に関する講義

2009年から4年間、弘前大学医学部「臨床医学入門」で講義する機会がありました。私の言語学的な知識を医学の分野に活かせるのは嬉しいことでした。

弘前大学医学部は青森県外からの入学者が多く、方言に戸惑うことがよくあるようです。方言が理解できない場合、人と人をつなぐはずの言葉が、(人間関係も含め広い意味での)コミュニケーション不全を引き起こす原因となりま

右は、フランス語と音が似ていると言われる津軽弁の一例。「セバダバ ヤッテミラ」(それではやってみます)は、とあるテレビCMの一場面。ことばの面白さは身近な所に潜んでいる。

す。医師を志して青森にやって来た若者たちが、少なくとも医療現場で方言に疲弊しないよう、医師と患者のコミュニケーションについて講義しました。

「地球ことば村」の活動

世界には、3,000～8,000もの言語があるとされています。ところが、21世紀末には半減、極端な場合、およそ9割の言語がなくなってしまうと予想されているのをご存知でしょうか？

私は、ことばに関心のある市民や学者が集うNPO法人「地球ことば村・世界言語博物館」の運営委員もしています。

中国語・スペイン語・英語・日本語等の大言語(母語話者数はそれぞれ世界第1位、2位、3位、9位)はもちろんですが、話者数が6,000人を切っている「少数話者絶滅危機言語」についても、母語話者や研究者を招聘して月一回勉強会を行っています。インターネット上に「世界言語博物館」を開設し、多様な言語・文化の共有も図っています。

この活動には、社会の第一線で活躍している方々も参加しており、メンバーの価値観は多様で刺激的です。日常接することのない方々と交流できる貴重な機会

津軽方言(津軽弁)	東京方言(標準語)
のたばる	うつ伏せになる
うじゃめぐ	ぞくぞくする・いやな感じがする
きつくらへんき	捻挫・ぎっくり腰
どんず	尻

ですから、なるべくゼミ生も誘って、半学半教、互いに教え学び合っています。

通じる世界のことばとところ

ある言語の言語知識が豊富であることと、コミュニケーションが上手にできることは必ずしも比例しません。

私のゼミでは頻りに議論の渦が発生しますが、相手の意見に異議を唱える場面では、相手の面子に配慮しながら自分の意見を提示するスマートさが求められます。通じる世界には、ことばだけではなく、こころが寄り添っていることを常に意識してほしいです。

未来を切り開く知的冒険を大学で

私たちの生活は、様々な分野の研究の積み重ねに支えられていると言っても過言ではありません。高校生・大学生のみならず、「世の中には学問の力が満ち溢れている」ことを体感してほしいですね。

先人たちが築いてくださった知の体系に飛び込み、アカデミックなトレーニングを通して、今後待ち受けているであろう様々な難事に対処できる力(問題発見力・問題解決力・自己表現力など)を涵養し社会に貢献してほしいと思います。

卒業生リレー

カッコ悪くても
決して「逃げない」

ふくしま まさひろ
福島 正洋
(社会科学部 1997年卒)

改革の流れの中で設立された法人です。全国に法テラスの事務所があり、今の東京事務所に配属になる前は、茨城県の「法テラス下妻」で2年半仕事をしました。司法過疎地域とよばれる同市で経験を積めたことは、貴重な財産となっています。

弁護士の仕事で一番大切なことは、依頼者との信頼関係をいかに築くかという点です。「依頼者との信頼感関係の築き方には正解はない。自分がこれまでに培ってきた対人関係のノウハウ、全人生、全人格をかけて、真剣勝負でぶつかって行くしかない」とはある先輩弁護士の言葉です。私の場合、刑事事件ならば、相手が心を開いてくれるまで誠実な態度で面会を重ねます。一方で、裁判になり解決まで2年半くらい要する案件や毎日寄せられる非常に多くの相談に応じています。正しい判断をするためにも、依頼者と一定の距離感を保ち、客観的に仕事をすることも体験から学びました。

相手の気持ちはわからない

弁護士だから相手の考えがわかる、というのは間違いです。依頼者の話を聞いて、考えをまとめるときは、常に相手は違う考えかも知れない、本心は異なるのかもしれない、と自問します。

依頼者に感謝されて終わるときがこの仕事の醍醐味です。もちろん依頼者の希望通りの結果にならないこともあります。その場合は出来る範

囲で最もよいと思う結果を出せるよう奮闘しています。

時に妥協し、どのような結果も受け入れなくてはならない、ドラマのようにカッコいいものではありませんが、「逃げないこと」が私の信条です。

学生時代

一浪して杏林の社会科学部国際政経コースに入り、饗庭孝典先生のゼミで東アジアの近現代史などを研究しました。大学時代の一番の思い出は、探訪同好会の愉快的仲間たちと過ごした濃密な時間です。八王子キャンパスの裏山を隅々まで探検したこと、合宿と称する日本各地への旅行、一晩で18ゲームもしたボウリング…。好きなことや、感受性を刺激するものは、誰に何と言われようと、とことん熱中するのが私の性格です。それが司法試験合格の原動力にもなっていたのでしょう。

生涯の友

探訪同好会で一緒だった、年齢が一つ上の佐藤篤志さんとは、いまでも趣味や仕事の後の一杯などで交友関係が続いています。司法試験に合格した後の研修施設で、刑務官として働く佐藤さんと偶然出会ったときは本当に驚きました。

人生は、偶然の積み重ねのように見えて、実は必然の出会いが隠れている気がします。

後輩へのメッセージ

情報に振り回されたり、他者と比べて不安になるのではなく、自分にとって価値があることなら、熱中して、とことんまで突き詰めることです。そのエネルギーと、やりきった自信が、社会人として生きて行く「力」になると思います。

一度きりの大学生時代に、他人に左右されない自分の価値観で、何か一つのことをやり遂げてもらいたいと思います。

学園創立 50周年へ 9

クロニクル

杏林年代記

初代学部長のこぼれで振り返る八王子キャンパス



開校式を前に工事が進む医学部の進学課程校舎（1970年3月撮影）。1979年より三鷹キャンパスで一貫教育を始めるまで医学部の学生は八王子キャンパスで学んでいた

いかなる学生を世に問いたいか



勝目卓朗学部長

保健学部が誕生した1979年、翌年の年頭挨拶で、初代学部長の勝目卓朗先生はこう述べています。「いかなる学生を世に問いたいか。それがためにはいかなる考えを实践するか。その理念の素晴らしさが同時に強いエネルギーを生み、それがその大学の将来を決定するとすれば、今ほど重大な時期はないことを痛感する次第である。

新年を迎えるにあたって思うことは、我々が今日の混沌たる世に九牛の一毛でも正しい方向に役立つ学生を送り出すとすれば我々にも学生にも祈りにも似た生命の豊けさが必要ではなからうかということである。そのようなものを先づ臆よりと考えると絶望の思いにもとらえられるが、せめて今年は次の釈迦の法句にすがらうと思う。

『よはいすでに過ぎ、死に近し。死して閻魔の斤に何を持し、何を残すか』

豊かな知性と感性をもった青年に育てたい



白石孝学部長

1984年、社会科学部開設。満一年を前に初代学部長の白石孝先生は1期生について語りました。「時代の流れに溺れさせぬためにも、豊かな知性と感性をもった青年に育てたいという念願は、現実には直面すればするほど強くなってゆく今日この頃です。むしろ、新しい世界を切り開くために、教職員がどんなに情熱を燃やしているかがわかれば、見違えるような学生になるものと思います。

一つ一つのハードルを越えながら、完成年次にむかって根気よく学部づくりをしてゆく所信と共に、中国のことわざにある『日久しくして人その心を知る』の言葉を改めてかみしめる年頭です」

英知を集めて、「大学戦国時代」の波濤を乗り越えて行かん



伊藤清司学部長

4年後の1988年、ついに外国語学部が誕生しました。

初めての入試は募集定員に対して6倍もの志願者を集めた外国語学部ですが、初代学部長の伊藤清司先生は次のように話されました。「大学の真の評価は志願者数の多寡によって決まるのではなく、いかに優秀な卒業生を世に送り出すかにかかっています。(中略) 徒に新奇に走ることは慎まなければなりません。時代に即した発想の転換に躊躇することもまた戒めなければなりません。

杏林大学の伝統に立脚しつつ、かつその名声に甘んじることなく、新学部に対する関係各位の負託に応えるべく、私たちはさっそく英知を集めて、『大学戦国時代』の波濤を乗り越えて行かなければなりません」

初代学部長がいかに学部の将来に思いを馳せ、その行く末に目を向けていたかが偲ばれます。学園創設50年、そして井の頭キャンパスへの移転に向け、改めて学部創始者の言葉をかみ締め、次の新しい時代を築いていく必要があるように感じます。

在学生リレー エンジョイ☆杏林 Life

広い見識と
柔軟な思考を持つ
医師になりたい

もり かずあき
森 一祥
(医学部 医学科5年)



の13人の役員の一員として、年に2回海外で開かれる世界総会に出席しています。これまでの活動を通して、欧米、アジア、アフリカ、中東など世界各地の人々と交流しました。文化や価値観の違いに触れる度に、自分の視野が広がり、異なる考えや価値観を柔軟に受け入れられるようになっていくことを実感しています。

英語で議論をする際は、自分の考えを持ち、相手に伝わるプレゼンをすることが大切ということも体験しました。

休学の決断

学業と並行して IFMSA の活動を

していましたが、次第に「学生の今だからできることにもっと懸命に取り組みたい」「多様な価値観を受け入れられる人間になりたい」と思うようになりました。当時の担任の水川良子先生にも相談し、思い切って2014年度の1年間、休学することにしました。

実り多き IFMSA での活動

この間、精力的に IFMSA の活動を行い、8月には、アジア各国から約70人が参加して福島県で行われた災害医療サマーキャンプにアドバイザーとして携わりました。

今年4月に復学しますが、6年のクリニカルクラークシップ(診療参加型臨床実習)はアメリカやデンマークで行いたいと思っています。

将来は、留学や海外の医療機関で働くことにも関心があります。

今後の可能性を広げるために、これからも今できること一つひとつに全力で取り組んでいきます。

28歳で弁護士をめざす

2004年、法曹人口拡大の要請に応えるために法科大学院制度ができ、司法試験の合格率が高まりました。社会で自分が存在する意味を明らかにしたい、人の役に立つ仕事がしたいと思っていた私はチャンスだと確信しました。

とはいえ、杏林大学時代は法律にまったく興味がなく、専門の勉強をしていなかったので周りの人は皆驚いていました(恥ずかしながら、そもそも大学で勉強をしたという記憶がありません)。

まず予備校に通って東洋大学法科大学院に入り、卒業後2回目の挑戦で司法試験に合格しました。この間はまさに勉強三昧の日々でしたが、苦勞より、明確な将来の目標に向け、一歩ずつ前進しているという実感があり、喜びのほうが大きかったです。

現在の仕事

法テラス東京法律事務所、一般民事事件、消費者被害、多重債務問題、離婚事件、労働問題、刑事事件など様々な案件を取り扱っています。「法テラス」は、資力に乏しい社会的な弱者でも満足な法的サービスを受けられるように、司法制度



IFMSA と出会う

小さい頃から海外に関心があり、大学入学と同時に英語の学習や国際交流を行うESSサークルに入りました。ここで国際医学生連盟(IFMSA※)を知り、1年の時からIFMSAの活動に参加するようになりました。

IFMSAでは臨床交換留学に関する委員会の責任者として、海外の医学生が日本の提携大学病院で臨床研修を行うためのサポートをしています。

大学4年からはIFMSA日本支部

※1951年にヨーロッパで設立。世界の医学生を代表する国際フォーラムとして認められた非営利・非政治の国際NGO。2014年3月時点で、116カ国・地域の120万人以上の医学生が加盟している

学部・大学院トピックス

医学部

「地域と大学」研究発表会



新科目「地域と大学」のねらい

医学部1年生の新科目「地域と大学」は、本学が平成25年度文部科学省「地（知）の拠点整備事業」（COC事業）に採択されたのを受けて、平成20年度より行われていたグループプロジェクトの発展形として、今年度より必修科目の医療科学Aの一部のカリキュラムとして始まりました。

地元三鷹の医療や福祉について自分たちが設定した課題を街に出て体験的に学びます。これから医師への学びを深める1年生が、さまざまな立場の方から話を聞くことで、社会が医師・医療者に望んでいることを実感するもこの科目のねらいのひとつ

です。学生たちは、4月と5月に厚生労働省の技官や三鷹市の健康福祉部門の担当者などから国や地域の医療・福祉政策などについて講義を受けたあと、7～8人のグループに分かれてそれぞれ研究テーマを決め、担当教員の指導のもと10月中旬までに医療・福祉の現場でフィールドワークを行い、調査をまとめました。

16グループによる学習発表会

11月15日には三鷹市役所の関係者や教職員を前に16グループの学習発表会が行われました。

この中で医学部生としての地域貢献を

各グループの発表タイトル

A	A班の救急講座@杏林 あなたにもできることがある
B	三鷹市の防災医療 自・共・公の助け合い
C	三鷹市の福祉 障害児の支援環境について
D	救急医療の問題点と対策案
E	三鷹市の障がい者支援 高次脳機能障害患者への対応
F	保育園に託児する母親のニーズを通じて現状を考える
G	児童虐待 知ってほしい、虐待の現実
H	三鷹市のバリアフリーについて 視覚障害に焦点をあてて
I	待機児童
J	三鷹市の目の検診事業について
K	受療行動の実態
L	医学生としての地域貢献を求めて 地域包括支援センターを通して考える三鷹市の高齢者福祉
M	三鷹市と老人介護
N	三鷹市とAED
O	周産期医療—地域と杏林大学院の連携
P	三鷹市の老人ホームと医療



テーマにしたLグループは、まず三鷹市の高齢者人口の推移や高齢者世帯の構成員などの現状把握を市役所高齢者支援課で調査しました。

グループでは地域住民の保健・福祉・医療から虐待や介護問題などを総合的に行う地域包括支援センターに着目。市内に7カ所あるセンターのうち3カ所を訪問し、インタビューを行いました。

三鷹市の高齢者福祉における重要なキーワードは「多職種連携」と「認知症」ということがわかった彼らは、医療や介護の分野の多職種、なかでも医療職のかかわりが強く求められていること、そして医療従業

者の連携意識を強くするために、学生のうちからチーム医療に目を向け、自分たちが将来チームの一員として活動することが必要だと感じました。

グループリーダーの伊勢将大さんは、医学部生の地域の福祉への関わりについて、「ボランティア活動やイベントをとおして地域と接点をもち、『顔の見える地域社会』をめざすことが大切です。また多職種連携を前提とした、チーム意識をもつために医学的な知識にとどまらず、日ごろから様々なことに興味をもって学習したい」とグループが導き出した結論を話しました。

保健学部

杏林大学医学部付属病院臨床検査部での実習



左：細菌の検査結果を観察 右上：病理組織検査の顕微鏡観察用材料を作製 右下：顕微鏡を見ながらスケッチをする
学生の指導にあたった副技師長の関口久美子さんは、「量、速さ、正確さが求められる現場に驚いたことでしょう。でも、授業で習う基礎があってこそ。ここでの経験が授業や日々の学習に結びつけばいいですね」と話しました

現場で学ぶ

保健学部では各学科とも3年次に臨地実習を行います。

平成26年度、臨床検査技術学科では89人の学生が杏林大学医学部付属病院など33施設で約2カ月間にわたる実習を行い、講義や実験・実習で学んだ臨床検査に関する基礎知識が医療現場でどう応用されているか、また生理検査、検体検査の各現場をローテーションで見学し、臨床検査技師の役割と責務を学びます。

杏林大学医学部付属病院 臨床検査部での実習

このうち、杏林大学医学部付属病院では病理、生理、輸血/生化・免疫、外来/尿、血液、微生物の6部門で8人の学生が昨年11月から1月まで実習を行いました。

臨床検査技師から業務の説明を受けたり、検査方法の実際を見学したほか、院内で開かれるカンファレンスに同席する機会を得るなど、様々な体験を積みました。

学生の感想

- ・検体検査は無機質な業務と思っていました。心電図測定に立ち会い患者さんとの接し方を学んでからは、背景に患者さんが思い浮かぶようになりました
- ・外来検査を受ける患者さんの多さ、検査部で扱う検体の多さに驚きました
- ・医師、薬剤師、臨床検査技師などメディカルスタッフの会議に同席しました。検査技師には多くの知識が求められていることがわかりました
- ・臨床検査技師としての自分をはっきり思い描けた実習でした。期間中は学ぶことが多く、勉強量が増えました。この調子で国家試験突破を目指します

ひがし かつみ

臨地実習で学ぶこと 保健学部教授 東 克己

臨地実習は、大学の講義や実験・実習で学んだ知識が検査の現場でどのように応用されているかを知る、橋渡しの役割があります。

臨床検査技術の進歩は凄まじく、大学での学びだけでは不足することが多い。臨床現場の技師から具体的・個別的な最新の検査を学び、教室での学習と統合させることが必要です。加えて、患者さんはもちろん共に働く医療従事者とよき関係をつくることも大切です。自分のありようが直接これらの人々に影響を与えることを学び、人間的に成長していくことを支援するのも実習の意義です。

坂内教授、田島教授最終講義



特別講義を行う坂内教授（左）と田島教授

平成27年3月に定年をむかえる臨床検査学 坂内久一教授と精神保健学 田島治教授の最終講義が1月10日（土）、八王子キャンパスK棟517教室で行われました。

坂内教授は杏林学園短期大学衛生技術学科を、田島教授は杏林大学医学部をそれぞれ卒業し、長きにわたり本学で教育・研究に携わってこられました。

この日は、各40分の特別講義として、情熱を注いできた研究の一端を披露するとともに、数々の思いで深い出来事などを話されました。「研究は受け継がれてゆくもの」と、受講する教員や学生にバトンが渡されました。

講義の後は二人を囲み、ガーデン丘で記念パーティーが行われました。

総合政策学部

私たちの暮らしと世界をつなぐ学び



総合政策学部には国際連合や国連専門機関の国際社会における役割や課題について学ぶ授業「国際協力論Ⅱ」があります。昨年、本学が国連アカデミックインパクト参加校となったことを記念して、11月7日の本授業に国連広報センターの根本かおる所長を招き、国連の活動と世界

の現状に関する特別講義が行われました(写真上)。この日はオープン講義で多数の学生が出席しました。社会の第一線で活躍する人の話に触れ、学習意欲を高めた学生も多かった様子うかがえました。本授業を担当する川村真理准教授に話を聞きました。

授業をとらえて社会を見る目、考える力を養う

問題の背景を的確に判断しよう

たとえば貧困や格差の問題について考えたとき、その背景には経済、政治、教育、文化など様々な要因が考えられます。私たちが日本で安全に安心して暮らしているのは、世界の人々とのつながりがあるからこそです。普通の生活に必要な食べ物、衣服、住居など多くは外国産のものを使用しています。反対に私たちの生活スタイル、日本の企業活動、日本の政治や経済が世界の人々にも影響を与えます。グローバル化した社会で生きる私たちは、食、医療、安全など身の回りの現象を地域、国、国際社会とつなげて考える必要があるのです。問題を解決するには、問題の背景にある要因を網羅的に把握し、必要なものや有効な手段は何か、誰のどのような知識が必要なのかなど、総合的に判断しなければなりません。

総合政策学部准教授
川村真理



物と物、人と人を結びつける力、問題を多角的に見る事が重要になってきます。積極的に問題に関わろう 特別講義では、根本さんが難民支援活動、気候変動のゆくえ、女性の地位の問題など、グローバルな課題を自分たちの問題としてとらえて考えられるよう、わかりやすく話してくださいました。学際的知見を重視する総合政策学部は、演習等をとらえて社会を見る目や考える力を養い、解決策を導き出す教育に力を入れています。今回の特別講義で得た知見を普段の学びや活動に活かし、問題解決能力の向上につながることを期待します。

外国語学部

留学・研修・インターンシップ帰国者報告会



上海外国語大学に留学した様子を中国語で報告する今村有希さん(左)と川口真侑さん。帰国者全員の報告終了、外部評価者は「留学で得たことを多くの学生に伝えてほしい。今後も学び続け、日本と他の国を繋げる人材となることを期待する」と総評しました

語学教育を加速する留学

外国語学部は、高度な語学力とコミュニケーション能力を身につけるため留学を積極的に支援しています。

留学成果を測定 プログラム修了報告会

帰国した学生には、留学先の言語による報告会が課せられます。これは留学成果を測定するため、審査は外部評価者が行います。

平成26年度留学報告会に40人が臨む

1月10日、イギリス、カナダ、ニュージーランドほか英語圏と中国語圏の大学等へ留学した40人が報告会に臨みました。クライストチャーチポリテクニク工科大学のNicholas Ward先生と中国外交部の張智浩氏が外部評価者として、報告者の審査等を行いました。

マレーシア・インターンシップは、2週間の語学研修と2週間のインターンシップを組んだユニークなプログラムです。このプログラムに参加した小口夏美さんの体験記を紹介します(なお、報告会は英語で発表が行われました)。

マレーシア・インターンシップを終えて 観光交流文化学科3年 小口夏美

留学とインターンシップができるこのプログラムへの参加は迷わず決めました。最初の2週間はインターンシップの準備期間。ベルジャヤ大学でホスピタリティや電話対応、クレーム対応、国ごとの働き方の違い、マレーシアの文化などを学びました。その後、ベルジャヤ・タイムズ・スクエア(複合型商業施設)のインフォメーションでフロアや施設の案内を2週間担当しました。世界各国から観光客が訪れるため、様々な訛りのある英語が飛び交いますが、先輩社員が間に入ってくれたり、仕事の合間や休憩中に、英語



お世話になった先輩社員と(中央が小口さん)の発音指導をしてくださいました。積極的に行動することを心がけた結果、仕事に対する責任や語学の實力も身についたと思います。大好きな国の一つになったマレーシア。観光客として、あるいは現地で働く人として次に訪れる自分の姿を想像するとわくわくします。

八王子・三鷹両キャンパスではクラブ、サークルとして73団体が活動しています。今回は、卓球部と弓道部を紹介します。

卓球部(三鷹) 力を合わせ、上位入賞をめざす



ダブルスをとることが団体戦の試合の流れを有利にする。青のユニフォームが杏林卓球部員

医学部、保健学部、看護専門学校の学生23人からなる卓球部は、三鷹キャンパスの松田記念館で、経験者・初心者がそれぞれのペースで楽しく練習しています。月2回、筑波大学や早稲田大学など他大学の学生と練習試合もします。多くの相手と練習することで球の変化に対応できる力がつくので練習試合は有効です。練習後は学生生活から趣味の話までいろいろな話題で盛り上がります。卓球を通じて他大学の学生と交流できることもこの部活動の魅力の一つです。春秋の関東医科学生リーグ、東日本医歯薬体育大会など年間8試合に出場しています。

昨年11月に秋季関東医科学生リーグ団体戦が行われました。団体戦は、2ダブルス、5シングルスで、4ゲームを先取したほうが勝利します。最終ゲームまでもつれる試合もありましたが杏林大学は予選リーグを勝ち上がり、上位トーナメントに進出。出場24校中6位と入賞を果たしました。絶対的エースはいませんが、皆が「一つでも上をめざそう」という気持ちで日々努力した結果と感じています。3月には東日本医歯薬体育大会があります。創部から8年、向上心を持って部員一同、懸命に練習に励んでいきます。(主将 医学部2年 金子怜史)

弓道部(八王子) 力強く、凛として



弓道部には、保健学部・総合政策学部・外国語学部の学生40人が所属していて、八王子キャンパスの弓道場などで活動しています。初心者の部員も4ヵ月ほどで矢を打てるようになります。弓道では、技術や精神力、さらにマナーや礼儀作法が重視されます。定期的に弓を引くことはとても大切ですが、試験などで1週間ぶりに弓を引くときは、感覚を思い

出すのに時間がかかります。練習や昇段審査では弓道衣と称される筒袖の白地胴衣と袴を着用します。使う弓の長さは221cm(7尺3寸)が標準ですが、身長によってはそれよりも長い弓を



今年も三十三間堂大会に有志が出場

使います。矢を引く手には鹿革製の蹠(ゆがけ)というカバーをつけて、28m離れたところにある直径36cmの的をめがけて射ます。弓道は、足踏み、胴造り、弓構えなど弓道の一連の動作を表す「射法八節」という射法の形があり、はじめにこれらの一環した動作を覚えます。年に2回、四大戦(中央大学、法政大学、武蔵野美術大学との交流試合)を行っていて、26年度は、保健学部の太田菜月さんが女子個人3位、チームは優勝を果たしました。2月末には昇段審査を控えており、部員一同練習に気合が入っています。(部長 保健学部2年 菅崎真璃)

キャンパス情報 ⑬

三省堂書店
杏林大学八王子キャンパス店

三省堂書店は明治14年創業。古書店からスタートし、すぐ新刊書店に転身して今日に至る。日本の主要都市だけでなく米国にも出店している大手書店チェーン。キャンパスストアも展開。神田神保町の本店は1000坪の巨大店舗。杏林大学八王子キャンパス店は平成10年オープン。



ホール杏（学生食堂）内の三省堂書店店長の松岡 右（まつおか ゆう）さんにお話を聞きました。

——仕事について教えてください

朝9時から夕方5時まで営業していますが、仕事は販売、発注、仕入、陳列、接客、帳簿付けなどです。1年で最も忙しいのは、学生が教科書を揃える4月から5月初めで、他店から応援がきて4～5人体制で対応しています。

——どのような書籍を置いていますか

ジャンルは様々です。棚の構成比は、各学部のカリキュラムに対応した書籍、就職対策、各種国家試験対策、簿記・語学などの検定対策の参考書などの「書籍」が5割。ファッションや旅行などの「雑誌・コミック」が2割、「文庫・新書」が3割です。

ベストセラーやアニメ化、映画化が予定されている話題の本も揃えています。

店内にない本は、取り寄せることができます。

なお、書籍・雑誌は一般書店では定価販売ですが、当キャンパス店は10%引き販売です。

——書籍以外のものはありますか

電子辞書、DVD、文具類のほか、保健学部の学生が使用する実習用ユニフォームや白衣も扱っています。少し高価ですがテレビでも話題になったペン型録音機も扱っています。

余談ですが、巨大プリンを作るキットを販売しましたが、残念ながらまったく売れませんでした（笑）。

——教職員も利用しますね？

教員や図書館職員から本に関する問い合わせがよくあります。お薦めした本を気に入って買っていたときは嬉しいですね。

——杏林の学生のイメージは？

わたしは平成15年からここに勤務していますが、杏林大学の学生はとても真面目で元気だという印象です。

店のオープンは朝9時ですが、朝早くから学生たちがホール杏で自習あるいは本を読んでいる姿を見ると頑張っていると思います。

とにかく学生がふらっと立ち寄れるようなアットホームな雰囲気のお店でありたいと思っています。

数字で見る杏林大学 ⑬

8+64?

杏林大学は文部科学省補助事業「地(知)の拠点整備事業」と「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援事業」に採択され、教育内容や方法の充実を図っています。

よく、グローバル化といわれますが、これは国を超えて、身近な「地域」と「全世界」が直結する時代になってきていることを意味します。

地域関連の科目

地域関連の科目は全学部で8科目以上開講しています。医学部の「医療科学A」、保健学部の「保健学概論I」「ホスピタリティ論」、総合政策学部と外国語学部の「地域と大学」などです。



これらの科目では、外部講師として市の職員を招いたり、グループ学習・発表などを取り入れています。

医学や保健学を学ぶ学生は、専門技術をいかに地域社会で活用してゆかかを学びます。文科系の学生は、八王子・三鷹・羽村市の地域の課題を外部講師を含めた演習をとおして理解します。

グローバル関連の科目

外国語学部ではグローバル関連の科目を64科目開講しています。「グローバルシチズンシップ論」「グローバル人材論」「アジア・ホスピタリティ論」などがあります。自分の立ち位置を理解し、グローバル社会・地域社会で生きる知識を得ることが一つの目的です。

さらに、総合政策学部で開講している「国際経営論」「国際関係論I・II」「アジア政治論」などでは、世界情勢の構図などを理解し、様々な国際問題に関する理解を深めます。

なお、外国語学部では所定の単位を取得し、語学力検定試験や留学に関する条件を満たすと「グローバル人材育成プログラム」修了証が発行されます。

このように杏林大学では、現代を生きる上で必要な授業科目を全学的に提供しています。

(人文・社会科学図書館 書間 大郎)



金田一 教授の研究室から ⑬

金田一秀穂（きんたいちひでほ）：1953年東京生まれ。東京外国語大学大学院修了。中国大連外語学院、米イェール大学、コロンビア大学などで日本語講師。1988年より杏林大学外国語学部で教鞭をとる

自分の顔

男の顔は履歴書だという。

中学生の時、「男は40歳になったら自分の顔に責任をもたなければいけない」というリンカーンの言葉を知って、その頃はまだ40歳には間があったから、少しは安心してたものの、小さな強迫観念がずっと残り続けていて、たとえば写真を撮られるのがいやになったりした。自分の顔に責任が持てないのだ。

床屋へ行くのは憂鬱だった。床屋の椅子に座ると真正面に巨大な鏡が磨かれてある。いやでも自分の生き方の至らなさを猛省させられることになる。だからなるべく床屋にはいかないことにして、仕方なく行くときには、すぐに目をつぶる。それでも床屋のおやじは、「どんなふうにしましょうか」などと鏡に映る私に向かって話しかけてくる。ひとしきり時間が経つと、「これでいいですかね」などと、自分が日ごろけっして見ることのない襟足が映っている鏡まで、ご丁寧にを見せてくれる。どうでもいいから早くひっこめてほしい。

鏡を見るのは好きではないが、もっと悪いのは、鏡を見ている自分を他人

と一緒に見ていることだ。恥ずかしい。この人はこれで自分の顔、つまり生活態度一般はいいと思っているのだろうかとか問いかけてられているような気がしてしまう。

そのように生きてきて、とっくのとうに、リンカーンの言う40歳を過ぎてしまい、あいかわらず自分のへなちょこさに日々直面しているのだが、或る時、救われたことがあった。アメリカのミステリーを読んでいたら「リンカーンのような醜男」という記述があったのだ。リンカーンは、アメリカの一般的基準からすると醜男なのだと知って、40歳云々の言について疑えるようになったのだ。

リンカーンは、恐ろしいほどのナルシストだったのだろうか。自分の生き方に自信があって、自惚れていたのだろうか。それとも私のように、自信喪失しながら毎日反省を繰り返していたのだろうか。後者だったらいいのかな、と思う。



健康ひとくちメモ ⑬

目が疲れる



目の疲れを感じたことがない方はいないと思います。長い時間歩けば足が棒になるのと同じで、目を酷使して疲れたというのは自然なことです。しかし、日頃それほど目の負担が強くない状況でも疲れがひどい場合、日常生活や仕事、学業に支障がある状態を眼精疲労と呼びます。

眼精疲労の原因で一番多いのは屈折異常と老視です。合わない眼鏡をかけている場合や細かい文字が見にくいのを我慢している場合で、目が自慢だったひとにも意外に多いパターンです。

視力が1.5というひとは軽い遠視（潜伏遠視）のことが多く、若い頃は良いのですが、早くから近業が負担になり、そのうち遠くも見にくくなってきます。

また、斜視や斜位も眼精疲労の原因になります。斜位は潜在的な両眼の視線方向のずれを調整している状態で、外見ではわかりませんが本人の目の負担は大きくなります。程度によりますが眼鏡にプリズムを組み込むことで負担を減らすことができます。

このように眼精疲労の多くは眼鏡を作ったり、調整したりするだけで驚くほど症状を改善することができます。

もう1つ最近、眼精疲労の原因として注目されているのがドライアイです。ドライアイには環境要因が大きく、パイロットはフライト中に75%以上が目乾燥感を訴えるといわれています。乾燥した機内で目と神経を使い続けるためと考えられ、長時間のドライブでも目が乾きがちになります。

エアコンが効いた屋内でのスマホやPCも悪条件です。空気の乾燥、風に加えて、凝視すると瞬きの頻度が半分以下に減ることが眼乾燥の誘因です。

目の表面が乾くと、不快感とともに見えにくさが生じて、眼精疲労に繋がると考えられています。重症例はともかく、多くのドライアイは周りの環境に配慮すること、意識的な瞬きを心がけること、時どき点眼薬を使うことで、ずっと症状を軽くすることができます。

ほかにも目の疲れには様々な原因があり、緑内障など失明に繋がる疾患が隠れていることもあります。目の疲れが気になるひとは一度、眼科を受診されてはいかがでしょうか。

(山田 昌和：杏林大学医学部眼科学教室・臨床教授)

やまだ まさかず 慶應義塾大学医学部卒業、米国Duke大学アイセンター研究員、慶應義塾大学眼科講師、国立病院機構東京医療センター感覚器センター部長を経て、2013年より杏林大学医学部眼科臨床教授



編集を終えて

・本号トップでは、井の頭キャンパス開設を1年後にひかえ、学長、副学長、4学部長に現在と未来を語っていただきました。また、5ページの「杏林年記」では、八王子3学部の初代学部長のこぼれ話を改めてかみしめ、杏林大学の着実な歩みを実感しました。(有)
・この2月、地域連携を巡る本学と三鷹市など連携自治体3市との意見交換会で、自治体から地域活性化への貢献に感謝の言葉が相次ぎました。石森孝志八王子市長からは「学生と市長とのふれあいトークの中で杏林生の提案した活性化策を27年度に予算化した」との話があり、「地(知)の拠点整備事業」採択を契機に地域連携が着実に成果を上げていることを実感しました。(ふ)
・杏林大学野球部は東京新大学野球連盟(24校加盟)26年度秋季リーグ1部で歴史上初の2位という堂々の成績。ちなみに私は観戦・応援に2月春季キャンプ(大分県佐伯市)から10月関東地区大会まで計5回行きました。今年も取材に行きます!(酒)

2015年度 大学行事・イベント (平成27年3月～平成27年9月) ※予定

- | | |
|--------------------------|----------------------|
| 3月18日(水) 卒業式(春) | 7月25日(土)～ 定期試験 |
| 4月4日(土) 授業開始 | 8月上旬～9月14日(月) 夏季休暇 |
| 4月5日(日) 入学式(春) | 9月12日(土) 卒業式(秋) |
| 6月上旬 杏会総会(保健、総合政策、外国語学部) | 9月15日(火) 授業開始・入学式(秋) |
| 7月24日(金) 授業終了 | |

*医学部の授業開始・終了、夏季休暇はこれとは異なります